



友の会だより No.45

(2021 年 7 月 30 日発行)

自転車文化センター

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1

TEL 03-4334-7953 / FAX 03-4334-7958

Email bccask@jifu.jp

OPEN 9:30~17:00 (最終入館 16:45)

CLOSE 月曜日(祝日の場合は翌平日)

令和3年度第2回テーマ展示

競輪の魅力展

～競輪自転車の仕組みを知ろう～

- 開催期間：令和3年6月30日(水)～9月26日(日)(予定)
- 開催場所：自転車文化センターギャラリー・ライブラリー
- 開催時間：9:30～17:00 (最終入館16:45)【※注】
- 休館日：月曜日(但し、月曜日が祝日の場合は、翌平日)
- 入館料：無料
- 展示内容：自転車の利用者にとって多くは、通勤・通学・買い物といった日常生活での利用が中心とした、軽快車や街乗りタイプのクロスバイクなどが主流ですが、今回のテーマ展示では、競技用自転車、特に普段目にすることのない競輪選手が使用している自転車が、どのように作られているのか、製造過程に触れ「競輪」の魅力を紹介すると共に、「競輪」自転車のしくみを知って頂ける展示内容となっております。ご来館お待ちしております♪



【※注】新型コロナウイルス感染拡大防止を受けて、現在、開館時間 11:00/閉館時間 15:00 に変更しております。開閉館時間につきましては、随時、当センターHP等にてお知らせいたしますのでご利用の際は、そちらをご確認いただきご来館くださいますようお願いいたします。

オンライン配信

《競輪スター選手トークショー開催》

配信日：令和3年9月中(予定) お楽しみに♪

◆詳しい詳細については、HP等にて8月中旬にお知らせいたします！

第3回テーマ展示のお知らせ♪

『おもしろ自転車展』開催いたします
令和3年9月29日(水)～12月12日(日) (予定)

♪BCC休館日のお知らせ♪

★月曜日休館〔祝・祭日の場合は翌平日〕

8月2日・7日(土)臨時休館・8日(日)臨時休館・9日(月)臨時休館・
16日・23日・30日

9月6日・13日・21日(火)・27日・28日(火)臨時休館

10月4日・11日・18日・23日(土)臨時休館・24日(日)臨時休
館・25日

新着図書のご案内

「サイクリング解剖学 第2版」(Sovndal Shannon著/田畑昭秀【監訳】 /ベースボール・マガジン社)
「オーストラリア自転車」(鎌田悠介 著/つむぎ書房)
「折りたたみ自転車&スモールバイク CUSTOM」(辰巳出版)
「気をつけよう!自転車トラブル~最新のルール・罰則を知ろう~1」(日本交通安全教育普及協会/汐文社)
「気をつけよう!自転車トラブル~最新のルール・罰則を知ろう~2」(日本交通安全教育普及協会/汐文社)
「自転車大好き4号」(舟橋武志 著/ブックショップマイタウン)
「MOUNTAIN BIKE ACTION 36-4」
「灼熱起業」(高杉良 著/文藝春秋)
「首都圏発 週末自転車さんぽ」(旺文社)
「MOUNTAIN BIKE ACTION 36-5」
「クロスバイク完全カタログ」(コスミック出版)
「MTB 日和 vol.45」(辰巳出版)
「折りたたみ自転車&スモールバイクカタログ」(辰巳出版)
「CYCLE RIDE/グラベルロード&ミニベロを楽しむ」(ホビージャパン)
「ジャパンバイシクルルート/日本のサイクリングコースベスト10」(ピークス)
「東京サイクリング23区編」(八重洲出版)
「ロバのアメリカ横断自転車旅行/息も絶え絶え旅日記」(石岡通孝 著/未知谷)
「気をつけよう!自転車トラブル~最新のルール・罰則を知ろう~3」(日本交通安全教育普及協会/汐文社)
「MOUNTAIN BIKE ACTION 36-6」
「自転車日和 vol.58」(辰巳出版)
「大人が読む! こども LOOP Magazine/ストライダー世代ネクストジェネレーション」(三栄)
「はじめてみませんか?自転車の旅/男の隠れ家別冊」(三栄)
「サイクリストが選んだニッポンのサイクリングルート BEST100」(八重洲出版)
「自転車大好き5号」(舟橋武志 著/ブックショップマイタウン)
「MOUNTAIN BIKE ACTION 36-7」
「MTB 日和 vol.46」(辰巳出版)
「MOUNTAIN BIKE ACTION 36-8」

「BCC友の会」会員募集中♪

自転車に関する書籍など、約11,500冊以上を所蔵しています。会員登録をしていただいた方に限り、図書の利用閲覧をすることができます。会員各位におかれましては、ご友人様などご紹介頂けたら幸いです。

「BCC友の会 1日利用システム」♪

現在、皆様にもっと当センターを活用して頂きたく【1日ご利用システム】を設置しております。
是非、ご利用してみたいかでしょうか!?
ご利用の詳細は、BCCHP又はBCCまでお問い合わせください。

～友の会会員証有効期限のお知らせ～

『会員証』更新につきましては、入会日から2年間、ご来館のない場合は、無効となりますのでご注意ください。また、再入会の場合は、新たに入会手続きが必要となります。有効期限などご不明の場合は、BCCカウンタースタッフまで、お問い合わせください。

自転車文化センターにご来館の際は、必ず会員証をカウンターまでご提示ください♪



科学技術館入館チケット（招待券）プレゼント！

科学技術館（千代田区北の丸公園）「2F 自転車広場」には、当センター所蔵の歴史的自転車などの常設展示を引き続き行っております。ぜひお立ち寄りください。

♡友の会会員の方に科学技術館入館チケット(招待券)を先着10名様（お一人様2枚まで）に差し上げます。

自転車文化センター(目黒)にご来館のうえ、インフォメーションカウンターまでお申し出ください。

※現在、入館については、予約サイトからの入館予約が必要となりますのでご注意下さい。
詳しくは、科学技術館HPにてご確認ください。

BCC 新型コロナウイルス感染防止対策

※ご入館の際に、手の消毒並びにライブラリー・ギャラリーカウンターにて非接触タイプの体温計を用い、ご来館者の体温を確認させていただきます。検温の結果、37.5℃以上の発熱が確認された場合、入館をお断りさせていただきます。

※来館者の把握と記録の為、入館用紙記入のご協力をお願いしております。 氏名、連絡先（同伴者全員）をご記入ください。（ご記入いただいた情報は、自転車文化センターにて保管し、新型コロナウイルス感染症対策を目的として、保健所等公的機関への情報提供以外には使用いたしません。）

※入館後に、咳が止まらない等の症状が確認された場合、当施設責任者の判断によりご退館いただく場合がございます。

※ご来館の際にはマスクの着用をお願いいたします。

BCCサイクリングコース推奨ブックについて

BCC サイクルアドバイザー 山口文知

1. はじめに

自転車文化センター（BCC：BICYCLE CULTURE CENTER）では、スポーツ用自転車による旅行や観光（サイクルツーリズム）は、数ある旅のスタイルの中で取り組み易さや行動範囲の広さなどから、これから取り組もうとお考えの皆さんや既に取り組んでいる皆さんに、参加型観光コンテンツの重要なアイテムは自転車であるとの考えにより、基本的な内容と情報をお伝えするために前回「入門ガイド」を上梓いたしました。

旅行や観光をする人自らで旅を計画し、ハンドルを握りペダルを漕きながら旅を続けることにより新たな発見して、旅そのものに積極的に関わっていくためには自転車はとても手軽で身近な手段であると思います。

そして今回は、その具体的な提案と実践編として、BCCの所在する目黒を発着点としたサイクリングコースを距離と高低差を勘案したクラス分けをして、初級、中級、上級の3コースを紹介する内容の冊子を再び上梓いたしました。

紹介する初級コースはまさしく目黒が舞台となる落語の「目黒のさんま」の所縁の地をたどるコース、中級コースは誰もが知っている史実である「忠臣蔵」の実際の現場をたどるコース、上級コースは江戸から富士山を眺めるにあたり、目黒は格別な景勝地であったことから、先ず目黒でその史跡を回り、その後は江戸各地に点在する富士山の景勝地をたどるコースを紹介することにいたしました。

2. 江戸は歴史と地形の変化に富んだ庶民文化の都市

東京の旧称は江戸と呼ばれていましたが、この江戸の由来とは、平安末期から鎌倉時代にかけて武蔵国の秩父から入間川流域にかけて、この一帯を支配していた豪族に秩父一族がおり、この一族の重継と言う人が平安時代末期に武蔵国の江戸郷に移り住み、江戸氏を興したことに由来しています。

徳川家康が駿府（静岡県静岡市葵区周辺）から江戸に移り、1603年（慶長8年）に江戸幕府を開府し、その後1868年（慶応4年）までの長きに亘り徳川家が将軍職を世襲し、徳川家と幕政の首脳陣により政（まつりごと）が執り行われて、領土や人民を統治した江戸は日本の中心地でした。

江戸の人口は忠臣蔵の赤穂事件が勃発する6年前の1695年（元禄8年）には85万人に達して日本一の都市になり、1837年（天保7年）には128万人となってヨーロッパ最大のロンドンの85万人を大きく超えて、世界最大の人口を有する都市になりました。

その後に江戸は東京と名称変更をされたものの、京都には朝廷があり、都としての要素や役割分担が分割している二重構造でした。しかし、1869年（明治2年）に都が京都から東京に移され（東京奠都）、その後、関東大震災で壊滅的な被災をし、太平洋戦争の東京大空襲でも大きな損害を受けましたが、その都度目覚ましい復興を遂げて、今日に至るまで東京は日本の首都としての役割を担ってきました。

また地形的に江戸幕府開府前の江戸は、江戸城（現在の皇居）のあたりまで日比谷入江で海が入り込み、現在とは比べ物にならないほど海が内陸に入り込んでおりました。海沿いの多くには汐入地が点在し、太田川（現在の江戸川）等いくつかの河川の下流域であったため葦などが生い茂る湿地帯であったことが伝えられています。

これら海辺の背後には武蔵野の台地が迫り、この丘陵には広大な雑木林の森林を有し、その狭間を多摩川などが流れ、河川によって形成された扇状地のある地形となっていました。

東京は関東平野の南部に位置しており、一般的にはなだらかな平地であるイメージがありますが、実は高低差のある複雑な地形をしている土地で、たとえば東京の23区内だけでも、開発等によって現存しないものを含めると、約850箇所以上もの坂があるのです。

現在の港区愛宕にある23区内最高峰の愛宕山（標高26メートル）はこの武蔵野の台地の東の端にあたります。

この例からも海辺のすぐ後ろは台地になっており、平坦な土地が極めて少なく、利用価値の低い江戸を徳川家康は、埋め立ての普請や掘割等の水路を整備し徐々に市街地を増やし、江戸城を中心とした大きな城下町を構築していったのでした。

江戸の開府当初には三百町余りだった町が、江戸中期には千町を超えており「大江戸八百八町」なる言葉が聞かれるようになりました。しかし実際の総町数は1744～1748年の延享年間には1678町にもなり、八百八町の倍以上の町がありました。

現在の北区王子、滝野川や飛鳥山などは当時としては江戸の郊外であり、春は桜、夏は水遊び、秋には紅葉と行楽地として江戸の町民に持て囃されており、一部の文化人などは、江戸市中に深山幽谷の趣のある情緒や風情のある庭を造営し好みました。

風流風雅を好む嗜好はやがて世界の文化に大きな影響を与えた浮世絵をはじめとする化政文化と言われる数多くの文化や文芸が生み出され、江戸は高い民度の庶民文化が大成した地となったのです。

今回取り上げた落語「目黒のさんま」は武士に対する風刺としての色も濃く、「忠臣蔵」は武士による敵討ちの話ではありますが、それを見守る町民の気持ちをも織り交ぜた内容になっていると思われます。

※目黒のさんま、忠臣蔵には諸説紛紛がございます。

このように東京は、江戸時代の以前から、また明治、大正、昭和、平成、令和と数々の歴史をつないだ舞台でもあり、歴史的にも地形的にもそして文化的にも大変興味深い土地となっているのです。

今後もそんな東京のいろいろな題材とその要素を織り交ぜたサイクリングコースを紹介し、皆さまへの新たな興味と創造と問題解決のトレーニングの一助になることを希求するところでございます。

◆「BCC サイクリングコース推奨マップ①」につきましては、数に限りがございますので、希望される方は、ご来館頂き『友の会員証』ご提示のうえカウンターにてお申し出ください。



自転車文化センターは、競輪の補助を受けて事業を行っております。

